

これからも地域とともに

守口市民生委員児童委員協議会の小川勝会長、村橋博一副会長、秋原朋子副会長、加藤昌代会計、守口市社会福祉協議会の鳥野洋司事務局長、山内仁主任の皆さんに、民生委員・児童委員の制度や課題などをお聞きしました。

民生委員の主な仕事とは？

【小川】「昔は生活困窮者の生活福祉のことが主でしたが、家族構成も変わり、少子高齢化に伴う福祉の問題、生計面から少し離れた問題がすごく増えてきました。ひとり暮らしの高齢者や高齢者のみの世帯、障がいをお持ちの人などのお世話や相談が増えています。それと児童委員も兼ねていますから、子どもに対する虐待や安全を守るための

活動も。生活保護を受けている人への対応も、増加して難しくなっています。先代の民生委員は生活保護に関する人のことが主体でしたが、今は生活保護費を届ける仕事もなくなり、保護受給世帯への訪問も少なくなりました。一方で、高齢者の世帯が増えましたので、安否確認や困っておられる人の相談など質・量とも増えています。」

民生委員の活動内容の変化はいつ頃からでしょうか

うか



小川会長

【鳥野】「生活保護の申請時に、民生委員の紹介が義務付けられていた時期が長い間ありました。その義務付けが、個人情報や生活保護受給



秋原副会長

者が民生委員より圧倒的に多くなった理由でなくなったのです。その時に生活困窮者に対する民生委員の関わり方が若干変わったように思いますね」

【小川】「安否確認や地域の情報確認をするのに忙しくなってきたのは確かですね。健康や医療の相談、生活の悩みなどもありますが、高齢者の相談内容は幅が広く多いですね。訪問回数も多く取らないと、安否の確認が取れない人もいますので。今は民生委員だけでは、仕事が大変ですし、いろいろな団体と連携を取りながら進めています。特に地域包括支援センターは民生委員として大変心強い。」

【山内】「全国的に民生委員の普段の見守りや支援は、より期待されています。」

【鳥野】「介護など専門的な知識を持っていくのが包括支援センターです。市民の要求はどんどん高まっている。その連携というの切っても切れない、切り離せないですね。民生委員もこれまで以上に連携を深めた



鳥野事務局長

民生委員として、仕事上で心掛けていることは

【小川】「児童委員としては学校でのいじめ問題、不登校や引きこもりがあるので、幼稚園・小・中学校などと連携、連絡を取り情報を共有しています。幼児から高齢者まで幅広く接しています。生活上の困窮者を主に見ていた時代から考えますと、民生委員になっていただくにも苦労が多いんです」

【加藤】「町会を通じていろいろ情報を頂いています。そうであれば一人では20世帯ほどの情報を得ることはできません。いろいろ問題が出てきますが、そういう時は包括支援センターの



村橋副会長

覚えてもらうことから始めました」

【小川】「対象は赤ちゃんから18歳まで。子育て中のお母さんは、思いもよらない悩みを持っているので、相談に乗るよう訪問し、様子を



山内主任

今後どのように進んでいかれますか

【小川】「ますます高齢化が進みますし、複雑になっていく現代社会ですので、地域で孤立される人がないように、これからも見守ってまいりますね」

【村橋】「今は、自分中心や自分の家庭さえ良ければいいという

人に支援していただいています。昔とは違って新しい問題も出てきていますのでね」

【秋原】「主任児童委員を地域の中で知っていただけない状況があります。平成6年に主任児童委員制度ができ、守口市では当時3人で、何をしていたのかも分らず、学校に行き、顔を



加藤会計

【加藤】「主任児童委員を地域の中で知っていただけない状況があります。平成6年に主任児童委員制度ができ、守口市では当時3人で、何をしていたのかも分らず、学校に行き、顔を

【山内】「活動内容の幅が広がりますし、新しい制度への対応も必要のため、事務局としても常に研修などで新しい情報を発信しています」



民生委員・児童委員 100周年シンボルマーク

【加藤】「今回の特集で、若い人に理解していただいて、賛同していただける人、これから先、若い委員が出てくることを望んでいます」